市之瀬幼稚園だより

すみれ

令和３年５月２７日

心動かして遊びを楽しむ子どもに

園 長　　太田　伸男

今年度の園内研修のテーマは，「心を動かし，人・こと・ものと関わりながら遊びを楽しむ子どもの育成」です。私たち大人が，子どもに心動かす体験をさせることができるとしたら，どのようにすればよいのでしょうか。

レイチェル・カーソンは，「センス・オブ・ワンダー」で次のように書いています。

> 子どもたちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく，驚きと感激に満ちあふれています。…妖精の力に頼らないで，生まれつき備わっている子どもの「センス・オブ・ワンダー＝神秘さや不思議さに目を見はる感性」をいつも新鮮に保ち続けるためには，私たちが住んでいる世界の喜び，感激，神秘などを子どもと一緒に再発見し，感動を分かち合ってくれる大人が，少なくとも一人，そばにいる必要があります。（中略）
> もし，あなた自身は自然への知識をほんの少ししかもっていないと感じていたとしても，親として，たくさんのことを子どもにしてやることができます。…子どもと一緒に自然を探検するということは，まわりにある全てのものに対するあなたの感受性に磨きをかけるということです。それは，しばらく使っていなかった感覚の回路を開くこと，つまり，あなたの目，耳，鼻，指先の使い方をもう一度学び直すことなのです。

私が子どもだった昭和４０年代，田んぼ脇の用水路は，コンクリートで覆われていませんでした。土の壁を木の板で押さえてできていました。

水が多い時は，アブラハヤという魚が川面を飛び跳ねていました。竹棒の先に水糸を縛り，針とおもりと浮きを付けただけの竿を作り，釣りを楽しみました。野菜くず置き場を掘ってミミズを捕まえ，餌にしました。流れの緩やかな，橋脚や杭の近くに糸を垂らして釣りました。釣り上げる時に逃がした魚が大きかった時は，とても悔しかったです。

水が少なくなると，ズボンの裾をまくって川の中に入りました。橋脚や杭の周りの土が削れた所や脇板の隙間に手を入れて，魚を手づかみしました。フナの鱗のぬるっとした感触と手に着いた臭いを今も覚えています。

川底の水がきれいな時には，その頃も数が少なかったミヤコタナゴがいました。虹色に輝く菱形の体が，本当に美しいと感じました。

幼稚園では，これからオタマジャクシやカタツムリを探しに園外へ出掛けます。私も，子どもたちと一緒にオタマジャクシすくいやカタツムリ探しをしたいと思います。

ご家庭でも子どもの頃を思い出し，お子さんと一緒にザリガニ釣りなどに出掛けてみてはいかがでしょうか。